

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ローズマリー ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

我家には、あまり目立ちませんが、庭の片隅に1m未満のローズマリーが2本あります。ところが、今年の雪解け後の姿は例年になく哀れで、1本は完全に枯れ、もう1本は深刻な状態でした。

これは、最近雪が少ないので雪囲いをしなかったところに、1mを超えるような積雪があったためです。かろうじて生きて残った1本は、枯れた枝や雪折れした枝を取り除くと葉や枝が非常に少なくなり、枯れるのではないかと心配しましたが、今は元気に育っています。

1 特徴

ローズマリーは地中海沿岸地方が原産で、シソ科に属する常緑性の低木です（写真1）。和名はマンネンロウです。漢字では「迷迭香」と表記しますが、この表記は中国語表記と同じです。非常に強健で、乾燥した痩せ地でも育ちます。また強風にもよく耐える性質なので、非常に育てやすい樹木です。

真っ直ぐ上に伸びる木立性と地面を這うように伸びるほふく性があります。さらにこれらの中間型のものもあります。木立性のもは2m程度まで伸びるので生垣として、ほふく性のもはグラウンドカバーとして、それぞれ利用されています。花は11月から5月にかけて、青から青紫の小さな花を咲かせます（写真2）。

ローズマリーはハーブの仲間として古くから知られています。葉を利用したハーブティーはツンと刺激的な香りで、頭がすっきりします。また強い香りを持つので、臭いの強い肉や魚の料理にも使用されます。

2 維持管理

ローズマリーの特徴から、多少切りすぎてもどんどんと枝が伸びます。混み合ってくると、株の中に湿気がたまったり日光が十分に届かなくて葉が枯れたりするので、早めに剪定してください。湿気のある場所では、根腐れなどを起こすので、植えないようにしましょう。植えつけ時には、土に腐葉土や堆肥と元肥を施しますが、その後はほとんど不要です。根が深く張っていれば、水やりもほとんど必要ありません。

実生でも増やすことができますが、挿し木が適しています。春や秋に病気や害虫のついていない

健康な枝を10～15cmほど切り取って、下半分ほどの葉を取り除きます。1時間ほど水あげをしてから、水を十分しみ込ませた清潔な土に挿し、ぐらつかないようにまわりの土を軽く押さえます。その後、土が乾燥しないように半日陰で管理すると、1か月ほどで発根します。

病虫害に強い樹木ですが、病害ではうどんこ病が、虫害ではアブラムシやカイガラムシが発生することがあります。前者では、トップジンM水和剤やトリフミン水和剤等の殺菌剤を、後者ではマツグリーン液剤2やイマージ液剤等の殺虫剤を、それぞれ使用してください。

積雪は近年少ない傾向にありますが、今後も今年のような大雪は必ずあると思います。ローズマリーに限らず庭木を雪の害から守るためには、大変かもしれませんが、雪囲いを毎年実施することが大切です。



写真1 ローズマリー
2010.10.21 県中央植物園にて



写真2 ローズマリーの花と葉
2012.11.5 県中央植物園にて